

# LABORDO LXS ラボード LXS

- 耐久性とメンテナンスに優れた日本製の信頼感。
- 設置場所の自由度が高い小型コンパクト設計。
- 小型低床設計で免荷装置の併用が可能。



株式会社 日本メディックス  
歩行訓練用体重免荷装置  
SY-4300



静粛性に優れ、  
0.2km/hから0.1km/h  
刻みの超低速で  
速度調節が可能のため、  
歩行リハビリに最適です。

操作パネルは  
日本語表記で大きく  
見やすく、直感的な操作が  
考慮され高齢者でも容易に  
使用できます。

歩行面が低く  
脚力の無い方、  
小柄な方でも簡単に  
乗り降りすることが  
できます。



セノーはミズノグループの一員です。

## ラボード LXS 導入事例



事例 1



### 転倒のリスクを感じることもない 安全なところが良いです。

東金町はんだ接骨院  
院長 砂金 秀之 様

#### 導入して良かった点は？

普段から利用者様の転倒を心配している為、ほとんどの方に手摺に掴まえていただくようにしています。そうすると、自力での歩行が心配な患者様でも掴まった状態なら20分ほどでも歩くことが可能ですね。また、0.2km/hまで速度が下げられるのも良い点ですね。0.2km/hをずっと使うことはないのですが、脳梗塞で片麻痺の多少残る患者様に対しても安心して利用していただきました。

#### どういった使い方をしていますか？

当院では主に四つのパターンで使用しています。一つ目は変形性膝関節症の患者様に対してですね。O脚ではない歩き方や、痛くない歩き方に矯正する運動療法を行う為に使用しています。二つ目は脊柱管狭窄症で間欠性跛行をされている患者様

に対してですね。間欠性跛行をされている方は、自力で外を歩くことは困難なことに加え、補助器を使用して外で歩くことを気にされる方がいらっしゃるの、当院にお越しただいて10～20分間歩く、という形で利用しています。そして、三つ目がいわゆるスポーツジムのウォーキングマシンと同様の使い方歩いていただいています。四つ目はランナーズニーなどで走ると痛いという患者様に実際にLXSで走っていただき、痛みの程度と回復の程度を評価するのに利用しています。特に一つ目と二つ目のパターンに関しては、当院で組んだプログラムを行う為にLXSを利用しています。速度に関しては、変形性膝関節症の患者様は2km/hから開始していただき、慣れてきたら3.3km/h程の速度でご利用していただいています。脂肪燃焼を目的としている患者様は4.5km/h程ですね。ですので、総じて4km/h未満でご利用していただいています。



事例 2

### 安定した低速歩行で歩行機能の改善に 効果があります。

フィットネススクール ロコモK.O 長府店  
店長 藤達也 様 / トレーナー 須田 宏 様

#### 導入して良かった点は？

当ラボード LXS は 0.2km/h からの低速で使えるのは非常に役立っています。一人でちゃんと歩けない方に対し、有人店舗で低速での歩行動作を指導した後、無人店舗で継続していただけたことで「本当に悪かったの？」と思うくらい改善されたこともありました。速くなるとできないような動きの確認、指導、実践が低速機能のために行いやすいです。

事例 3



操作がシンプルで相変わらず使いやすく、わかりやすい。ボディリペアIIと合わせて下肢系なので人気があります。

医療社団法人 恵正会  
にのみやシニア・フィットネス  
所長 松村 さゆり 様



事例 4



免荷装置とトレッドミルを併用することで介護度を下げる取り組みができるのが良い点です。

リハビリデイサービスわたぼうし  
理学療法士 大島 豊 様

免荷装置とトレッドミルを導入した経緯は？

リハビリ機器を選定するにあたって、介護度の高い方も受け入れることを踏まえ、免荷装置とトレッドミルを導入することにしました。その結果、車椅子をご利用になっている介護度の高い方でもリハビリが可能になりました。

導入して良かった点は？

免荷装置ですが、早期に装置を使い、起立することで、低血圧を抑制できることです。また、免荷した状態で歩行が出来るようになると、トレッドミルを使った歩行訓練が可能になることも良い点です。

ラボードLXSは、最低時速0.2km/hから始まり、0.1km/h刻みで調整ができます。そのため、リハビリの中で、PTが刻一刻と変化する利用者の状態を診ながら、細かくスピードのコントロールが出来るので使いやすいです。

また、免荷装置とトレッドミルの併用により、介護度を下げる取り組みができることも良い点です。血液疾患、リュウマチやパーキンソン病の方は体重が掛かり過ぎたり、負荷が強過ぎたりすると、逆に状態が悪くなったりするので、その際には免荷出来たり、負荷をコントロールできるので効果を出しやすい要因となっています。